



140万人突破までの歩み



平成23年8月1日現在の沖縄県の推計人口が140万人を超えました。

表1 平成23年 沖縄県推計人口月別推移

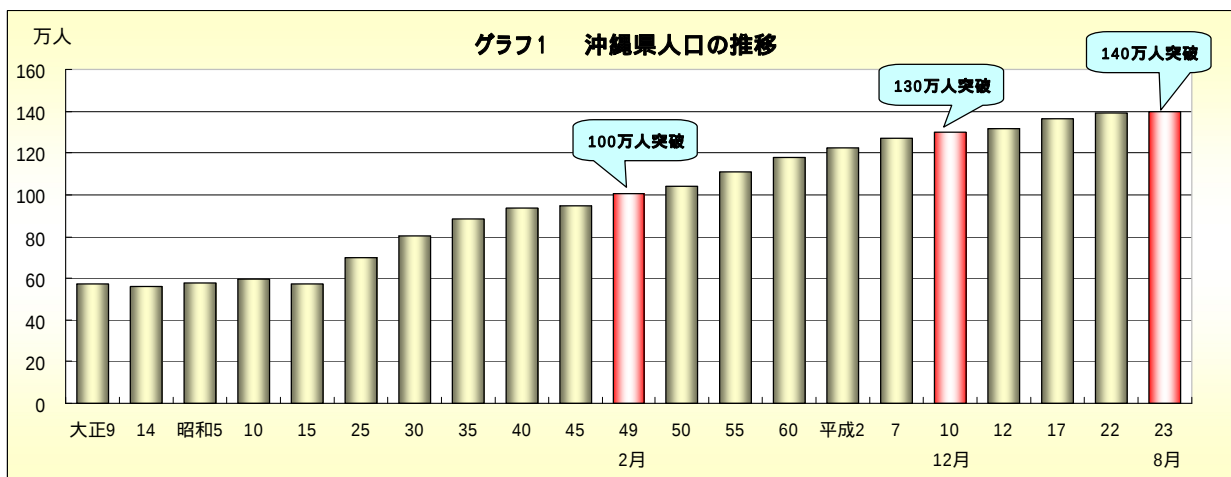
	各月1日現在人口	自然増減	社会増減	人口増減
1月	1,396,122	318 (445)	185 (27)	503 (472)
2月	1,396,625	439 (432)	169 (17)	270 (415)
3月	1,396,895	419 (548)	4,280 (4,757)	3,861 4,209
4月	1,393,034	426 (598)	3,483 (3,383)	3,909 (3,981)
5月	1,396,943	409 (434)	756 (159)	1,165 (593)
6月	1,398,108	452 (604)	740 (332)	1,192 (936)
7月	1,399,300	551 (584)	320 (228)	871 (812)
8月	1,400,171	()書きは平成22年同月の数値 単位:人		

沖縄県の人口は、右肩上がりで増加し続けていますが、その要因として人口増加率の高さがあります。沖縄県の人口増加率は、2.3%（平成22年国勢調査速報）となっており、東京都（4.7%）、神奈川県（2.9%）、千葉県（2.7%）に次いで、全国で4番目に高い増加率となっています。

また、出生数から死亡数を引いた自然増加も高く、一人の女性が生涯に出産する平均的な子供の数（合計特殊出生率）が全国一高いのも人口増加の背景にあります。

平成23年の月別推移をみると、3月の入学・就職・転職等により転出が多い月を除き、人口は増え続けています。【表1】

昨年と比較すると、5月、6月の社会増加が大幅に増えた点が特徴的です。



各年国勢調査人口。但し、「昭和49年2月」「平成10年12月」「平成23年8月」は推計人口による
沖縄県は昭和20年(1945年)は国勢調査が実施されていない。

さて、次に過去の人口の推移をみてみます。【グラフ1】

戦前の人口は、自然増加が5千人程度でしたが、海外移民等の社会減も多かったため、50万人台で増減を繰り返しながら推移していました。

終戦直後の昭和21年は、戦争の犠牲によって人口が激減しましたが、その後、海外から引き揚げてきた者の増加やベビーブーム等により人口は急増しました。

その後も人口は増加を続けましたが、一方で、日本経済の高度成長を背景に本土への転出者が徐々に増加しました。

特に、復帰直前は転出者が急増し、昭和44年に戦後初めて人口が減少となり、減少はその後3年間続きました。当時、このような状況から日本復帰による人口減少が懸念されましたが、復帰後の人口は、県外からの転入者が多かったこともあって予想以上に増加し、昭和49年2月に100万人を突破しました。

以後、一貫して増加を続けていますが、出生数の低下傾向、死亡数の増加傾向を反映して自然増加が7千人程度まで縮小してきており、増加の程度は小さくなってきています。

